

# 久慈農業改良普及センターだより



普及センター情報 217号

平成22年1月日発行

久慈農業改良普及センター

TEL: 0194-53-4989 FAX: 0194-53-5009

普及センターホームページは検索画面で...

久慈農業改良普及センター 公式

検索

## 県北・沿岸地域最大の営農組織が設立されました

平成21年12月22日「大川目営農推進協議会」の設立総会が開催され、全会一致の賛成により設立されました。

久慈市大川目地区では平成13年からほ場整備事業が進められ(受益面積85.1ha、受益農家187戸)、工事推進に関しては「事業促進協議会」が、整備後の営農に関しては「大川目営農組合」が役割を担ってきました。しかし、どちらの組織も受益者全員が参加した組織ではなく、ほ場整備後の品目再編や共同利用施設の建設など、受益地区全体の意思決定が必要な課題に対応できない状況にありました。

そこで、これら2つの組織を統合・再編し、ほ場整備完了後の農地の有効活用や効率的な営農を進めるための、全員参加による組織として設立されました。

今後は、地元住民との意見交換を重ね、総会で承認された営農計画に基づいた協議会活動を展開し、いっそう効率的な営農推進が図られるよう支援を継続します。



総会風景



協議会長に就任した砂子氏

## 農業青年活動実績発表会（県北地区）開催される！

去る12月16日、農業青年の研究グループおよび意見発表の県北ブロック大会が開催されました。これは、日頃の農業経営の中で抱える課題に対し、研究グループ活動やプロジェクト活動を通じて得た成果を発表し、農業に関する知識・技術を高め、地域農業を担う農業者の育成を目的に開催されているものです。

当日は、農業青年および関係機関等約50名の参加のもと、研究グループ発表9課題と意見発表3名の発表が行われ、研究グループ発表で3課題、意見発表で3名がブロック代表として県大会出場に選出されました。

当久慈地方からは、洋野町内の酪農家で構成されるグループ「ネイル・オブ・サンダー」が「乳牛における蹄病の予防・対策システムの構築」と題し、会長の苗代沢佳智さんが発表したほか、久慈市山形町の短角牛肥育農家や地元加工業者等で構成されたグループ「奇跡の短角牛(きせきのうし)」が「短角牛の付加価値化」と題し、会長の柿木敏由貴さんがこれまでの活動成果を発表しました。また、意見発表では、久慈市農村青年クラブの大鹿糠正行さんが「職業、農業です～誰でも出来る、独自性・特別なことはちょっとだけ農業～」と題し、就農前後の思いや将来の経営ビジョン等を発表しました。発表者3名は、堂々と発表を行っており、会場からは活発に質疑が行われました。

選考の結果、当久慈地方からは、研究グループの「ネイル・オブ・サンダー」と意見発表の大鹿糠正行さんがブロック代表として選出され、2月に行われる県大会へ出場することとなりました。



意見発表を行った大鹿糠さん

## 受賞おめでとうございます！

### 田村夫妻と下谷地夫妻「意欲ある担い手賞」 南エイ子さん「アグリビジネス活動表彰奨励賞」

岩手県内の産地づくりや地域づくり活動を喚起することを目的として、12月5日に「いわて農林水産躍進大会」が県民会館において開催されました。

この大会で農業部門の表彰を受けた久慈地方の方々を紹介します。



#### いわて農林水産振興協議会会長表彰「意欲ある担い手賞」 = 下谷地弘・信子夫妻(洋野町) =

ほうれんそうを主体に契約栽培により栽培面積を拡大するとともに和牛繁殖を導入した経営により、安定収入の確保と耕畜連携による循環型農業をすすめ、久慈地方におけるほうれんそう栽培のモデル的な農業経営体として高い評価を得ています。

#### = 田村芳明・八千代夫妻(久慈市) =

徹底した飼養管理と乳質管理により岩手県乳質改善大賞を受賞する等堅実な酪農経営を行い、和牛繁殖にも取り組み受精卵移植産子の自家保留による所得確保を図る等、飼料や燃油高騰の中においても模範となる農業経営体として高い評価を得ています。



#### むら・もり・うみ女性アグリビジネス活動表彰「奨励賞」 = 南エイ子さん(洋野町) =

代表商品の「生湯葉」を開発し、さらに保存性の向上により販路拡大を図りながら、「おからドーナツ」「南部せんべい」等の地域農産物活用の特産品の製造、販売に精力的に取り組む、地域における雇用創出にも貢献するなど模範的な活動が高い評価を得ています。

栄えある受賞まことにありがとうございました。

今後とも活力とうるおいにあふれた地域づくり活動に貢献していただきますことを期待しております。



## 水稲省力低コスト栽培実証実績検討会を開催しました

～ 検討会後には「低コスト水田営農研究会」を設立！ ～

本年度、本県沿岸部では初めてとなる水稲の「湛水直播栽培法」と「ロングマット水耕苗移植栽培」の技術実証を久慈市内で行い、省力・低コスト稲作技術の当地方への導入の可能性と、稲発酵粗飼料（稲 WCS）の生産を中心とした耕畜連携の仕組みづくりについて検討してきました。

1月21日には、管内の担い手農家や関係者を対象に実績検討会を開催し、1年間の実証の成果と今後の普及等について検討しました。

当日は約40名が参加し、はじめに普及センターから今年度の実証結果について説明しました。続いて久慈市農政課から、稲の刈り取りから梱包、牛への給与までの工程について、今後の課題等を交えて報告しました。参加者は栽培管理や鳥害対策、生産した稲 WCS の飼料としての評価等について意見を交わしました。

検討会終了後には、当地方の水田営農の展開を検討する場として「久慈地方低コスト水田営農研究会」が設立されました。水田営農の省力・低コスト化について、今後、研究会で大いに検討され、普及していくことが期待されます。



今年度の実証結果の説明後には、質問も多く出されました



「低コスト水田営農研究会」の設立に賛同して挙手する参加農家

## エコファーマー認定期間は大丈夫？

エコファーマー制度がスタートして10年近くが経ち更新時期に当たる方が増えてきています。

さて、ここで再確認。皆さんの認定期間は過ぎていませんか？更新しない場合エコファーマーとしての資格が失われてしまうのでご注意ください。

エコファーマーの認定期間は

認定から目標年となる「5年目まで」です。



\*更新の際には新たに5年先の栽培計画を立てて申請する必要があります。  
詳しくは農業改良普及センターまでお問い合わせ下さい。

## 久慈地方農業振興大会が開催されます！

久慈地方の農業振興を図るため、昨年度まで実施されてきた久慈地方園芸躍進大会、久慈地方農山漁村活性化フォーラムを統合し、畜産部門も加えて、今年度から開催される大会です。

大会では、久慈地方農業の担い手の方々やほうれんそう、花きなどの園芸品目および畜産の生産者を表彰し、今年度40周年を迎える久慈地方農村青年クラブ員による活動紹介やいわて農地緊急再生運動のお知らせなどが行われます。

また、午後からは(株)南部美人の久慈浩介専務(5代目蔵元)による講演が行われます。

大会の開催日時は次のとおりです。

【開催日時】平成22年2月4日(木) 午前10時30分～午後2時30分  
講演時間 午後1時00分～午後2時30分

【開催場所】ブランドール(久慈市長内町)

## 平成21年度 農作物の生育状況

作目名	品目名	生育状況等															
普通作物	水稻	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>移植期～幼穂形成期</b>:6月上旬～中旬の低温・寡照により、生育は平年より5日程度遅れた。その後、好天により生育は回復傾向にあったが、草丈、茎数が平年を下回る圃場も見られた。</li> <li>・ 7月下旬以降、降水日数が多かったため、葉いもちの発生が広く確認され、多発圃場も見られた。</li> <li>・ <b>出穂期</b>:7月下旬～8月上旬は低温・寡照に経過したため、管内の出穂期は平年より5日程度遅れた(盛期 8/13)。</li> <li>・ <b>収穫期</b>:登熟の遅れや台風8号の接近により、収穫期は平年より10日程度遅れた。(盛期 10/14)</li> <li>・ <b>収量</b>:生育診断圃では、各品種とも㎡当たり粒数および千粒重が平年を下回り、不稔歩合が高かったため、収量は平年の70～90%程度となった。</li> <li>・ <b>品質</b>:JAに出荷された米の検査結果は1等米比率が70.8%で、主な落等原因は未熟粒およびカメムシ類による着色粒であった。</li> </ul>															
野菜	ほうれんそう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 春の圃場準備等作業は順調に進み、4月～5月の生育は良好であった。</li> <li>・ 6月は高温乾燥の影響で出芽不良、生育遅延や抽だいが多発傾向であった。</li> <li>・ 7月には強風による葉のスレによる傷み等の生理的な障害が広範に見られたほか、比較的低温で降雨が続いた時期にべと病の発生も多く見られた。</li> <li>・ 7月下旬～8月の寡日照や集中的な降雨により、立ち枯れが多発し、生育は不良であった。また、白斑病の発生が一部で見られ、出荷不能になったハウスもあり、被害は11月まで散見された。</li> <li>・ 9月以降、緩慢ではあるが生育は回復し概ね良好となった。</li> <li>・ 10月は好天のため、生育が進み、寒じめを含めやや徒長傾向となった。ケナガコナダニの被害はこの時期が最も多かった。</li> <li>* 5月上旬頃からマイマイガ幼虫のハウスへの侵入が多く見られたが、ほうれんそうへの食害はなかった。</li> </ul>															
花き	りんどう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>採花圃場</b>:全体として葉枯病、褐斑病、ハダニ等の発生が見られた。</li> <li>・ <b>定植圃場</b>:生育は順調であった。一部にリンドウホソハマキの発生が見られた。</li> </ul>															
	スプレーギク	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 低温によりやや開花が遅れた。アブラムシ等の害虫の発生が多かった。</li> </ul>															
果樹	りんご	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>概況</b>:開花期以降気象にも恵まれ、良好に生育</li> <li>・ <b>果実肥大</b>:品種にもよるが、概ね平年よりも良好だった。</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>品種</th> <th>つがる</th> <th>ジョナ</th> <th>王林</th> <th>ふじ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>横径(mm)</td> <td>91.0</td> <td>97.7</td> <td>82.6</td> <td>91.0</td> </tr> <tr> <td>平年対比(%)</td> <td>104.2</td> <td>103.6</td> <td>94.4</td> <td>101.4</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>果実品質</b>:糖度は概ね平年並～平年より高かった。</li> </ul>	品種	つがる	ジョナ	王林	ふじ	横径(mm)	91.0	97.7	82.6	91.0	平年対比(%)	104.2	103.6	94.4	101.4
	品種	つがる	ジョナ	王林	ふじ												
横径(mm)	91.0	97.7	82.6	91.0													
平年対比(%)	104.2	103.6	94.4	101.4													
やまぶどう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>概況</b>:芽出し、展葉、開花については、平年よりも数日早く経過。開花期間中の6月第2半旬～第4半旬の低温・降雨等により、結実が不良となった。</li> <li>・ <b>平均単収</b>:118kg/10a(過去5年平均:219kg/10a)</li> </ul>																
飼料作物	牧草	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 牧草の1番草収穫期である5月下旬～6月上旬の低温・悪天候により、収穫作業は大幅に遅れ、繊維成分の増加、栄養価の低下が見られた。</li> </ul>															
	デントコーン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5月には播種作業が概ね終了し、生育も良好に推移してきたが、7月以降の低温寡照により軟弱徒長気味の生育を示している圃場もあった。</li> <li>・ 台風の影響で一部倒伏が見られた圃場があり、収穫作業の遅れ・収穫機間の長期化がみられた。収量は、平年より低い～並みとみられた。</li> </ul>															

